

大聖寺沖地震踏査報告(2)

福井測候所 中 島 信 之

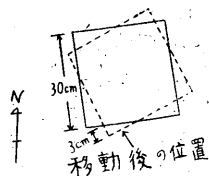
石川県小松市及び同市北辺より北西方に向い、安宅町に至り同町より再び小松市に引返し、国道を南下、粟津町附近を調査し帰福した。

小松市及びその周辺

かなりの震動を感じ、殆んどの住民が戸外に避難した模様で所によつては壁等が脱落し、屋根瓦の一部破損した所もあり、墓石、石灯笼等の建造物は倒壊した。同市北方にある葎島神社境内入口の鳥居(花崗岩)の上部にある石板額が震動のため落下し、附近で遊戯中の幼児に触れたため即死している。又同鳥居も破損し、倒壊までにはいたらなかつたが、亀裂を生じたため後に取りこわした模様である(附近住民を調査談話による)。

小 市～安宅町沿道

下牧部落の神社にある石灯笼は殆んど倒壊北方に倒れてをり、これらは昭和23年の福井地震の際倒れたものを再びつみ重ねたもので、そのつぎ目にはセメント等を流しこんでなかつた。白山神社の石鳥居の西側の柱が根本より折れ、北方に倒れており、同神社入口の花崗岩製大型石灯笼(高さ3.5m位)の重ねてある中位から上部が第1図の如くずれたのが見受けられた。



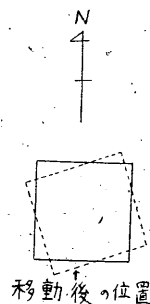
第 1 図

安宅町附近

家壁の亀裂を生じた位で、昭和23年福井地震の際の震動とは大分弱いと感じられた。又地震後の海水の異状は認められなかつた(役場及び住民の談)。

小 市～粟津沿道

小松市より約1km南方の地点に建てられてあつた石碑(高さ4m位の凝灰岩)が第2図の如く移動したのが見受けられた。



第 2 図